

特集：旧校舎のころ

昭和12年～17年まで

村井静子(昭和17年卒)

昭和12年4月、小学科より36名と二世の方が数名、別科から女学校に進級致しました。

小学科と違った事は、級が2クラスになり人数も100名になりました。制服も線が2本になり、胸明きが深く、ネクタイは大きく上衣丈は短く、ウエストが細くなった。机は鉄製のアームで椅子とつながり、椅子の下は引出で鞆等を入れて置く、隣席との間は通路で横6列(8列の教室も有)であった。毎朝生徒通用門を入り、玄関の右側に靴箱、隣りがクロックルーム(木製の箱形で上に帽子等を置く棚が有り、その下のバーにハンガーがかけられコート類を掛けました。その隣にお弁当を暖める小さな室があり、各学年の名札の付いた網籠が置かれてあった。始業時間になれば玄関から其所迄は鍵がかけられて出入不可能となり、遅刻をすると正面左手の扉から入り受付で名前を記入します。

靴箱の反対側はキャフェテリアで階段の隣は洗濯室、理科(松島龍藏先生)地歴(東洋史-岡部周三先生、西洋史-赤木芳先生、日本史-小沢三郎先生)化学教室(小山芳江先生)でそれぞれの準備室が向い側に並んで居りました。キャフェテリアの前と洗濯室から中庭に出られ、真中は芝生で中央にシュロの木があり芝生の両側は飛び石、お教室の窓下には沈丁花等が植込まれ中庭に続い

てテニスコートがあり、裏門寄りにネットやラケット等を入れる倉庫がありました。新入生にとって特別教室に移動する事は楽しく理科室の側面にある開き扉の中に、人体の模型の骸骨があり、お茶目な二年生は新入生を招き入れては驚かせて喜んで居りました。毎日の礼拝は大講堂の横の扉から一、二年生、上級生は二列に並んで中央通路を通り左右に分れて席に着いた。講堂の後は二重扉で(防音の為空間有)雨天体操場と接していた。

礼拝は月曜日～木曜日は日本人と時には5年生が司会をし金曜日は宣教師の先生が司会をされ、英語の礼拝でした。

週番制度があり各級2名ずつ組んで、左腕にブルーの腕章を巻き安全ピンで止め、一週間交替でした。3年生迄の週番の仕事は日誌を付ける事、毎日の天候、出欠の人数、授業の内容等頭をしぼって特筆すべき内容は細かに時には自分達の意見を記入し職員室に届けて置き先生の捺印を頂きました。次は級用のトイレのお掃除?上級生になりますと以上にプラスして、下級生が掃除した教室をチェックし黒板の端に綺麗に出来ましたとか批評を書いて廻りました。

最初の遠足は逗子海岸へ全校生徒による新入生の歓迎遠足でした。生憎の雨も先生始め上級生の方々のお心遣いで旅館の広間のような所で休憩し、

寸劇を見せて下さり水野富美子先生の「桃から生まれた桃太郎」のお姿、又「世界の挨拶」で、ある国はキセルを交換する等楽しく過しました。次は学年別遠足、尚3月には送別遠足を全校生徒で卒業生の為に行う等遠足が多かった。私達の修学旅行は一年次、香取鹿島（船で霞ヶ浦を渡った）二年次、鎌倉見学、三年次、奥日光一泊、四年次、会津若松―東山温泉二泊、五年次、関西三泊であった。

5月に英国皇帝戴冠式があり私達も講堂で英国国歌を歌いお祝い致しました。毎年卒業式には、駐日カナダ公使御夫妻の臨席を頂き卒業生代表が英語でご挨拶をする習しであった。

毎月1回小学科の歯科室で歯のクリーニングがあり、年1回の体格検査は浴衣を着て雨天体操場に集り行はれた。雨天体操場のギャラリーに階段式になった体操服等を入れて置く、個人名の入った引出を3年生以上は用いた。下級生は階下の窓ぎわに同じく個人名入の片開き網戸棚を利用した。らせん階段は左右にあり、右の階上に体育教師水木百代、篠田珪先生の控室が有り、左手窓側に机右側に体重計身長計が置かれ、シャワーの設備もあった。

母の日は赤か白のカーネーションを胸につけた。「花の日」には花が講堂の壇上にあふれる程置かれ礼拝後、先生と共に手分けして生徒が病院等にお届け致しました。

7月には日中戦争が起り、私達も慰問袋を作り慰問文を書き食料品等と一緒にに入れて出しました。7月10日から9月10日迄夏休みに入ります、通信簿は生徒の課程と学校との連絡事項のみとなり成績記入は甲乙で無く黒丸と赤丸の二種の印が付く丈で、注意すべき学科に黒丸尚一層努力を要する危険信号として赤丸が付けられ、何もついてい

なければ及第と云ふ事であった。

体操の時間にバスケットボールはしましたが、学年対抗の試合もあり優勝の級には当時海軍大臣であられた米内光政大將から贈られた銀杯が持廻りで与えられお教室に飾られました。米内杯争奪バスケット大会?と称し、全校生徒が雨天体操場に集い楽しくにぎやかに観戦致しました。(米内中子様も選手としてご活躍でした)私達の級も村井路子、尾崎美奈子、大塚松子選手方のご活躍でこのカップを取得出来ました。

聖書は堀内肥佐先生で文語体の文章でしたから口語に解釈をされ、夏休みの宿題にイエス伝を読みブックレビューを書いて提出し講評を頂くので少なくとも五年間に5冊以上の著者の異なるイエス伝を完全に読みました。

昭和13年にはミス・ハミルトンから小野直一先生に校長が代り、世相は何時のまにか軍靴の足音がひたひたと忍びよって居ても、夏休みには野尻湖(宮澤)に学校のキャンプも開かれ級友23名が参加し、冬はスキーに池の平へ行く等、先生方に守られ静かな楽しい学校生活を送る事が出来ました。

お裁縫は柴田睦子先生で白衣を縫いました、此の頃からでしょうか六本木の交差点を通ると、千人針を頼まれるようになりました。国語の教科書は国文鑑を使用したと思います(鶴沼さき先生)

「鉢の木」を習った時は四ツ谷の能楽堂に観賞に行き正座の為足がしびれて困りましたが、次の機会に「隅田川」を見学した時は母親の悲しみが伝ったのか涙ぐんだものです。鶴沼先生の授業は文章を暗記したり先生が「草枕」等の作品を朗読され、皆でお願いして度々聞かせて頂き楽しみにして居りました。5年生の頃先生は窓側に立たれ、生徒達が何人が教壇に立ってクラスメートの質問

に答える等教える勉強を致しました。

昭和14年に御眞影奉載式があり、校長先生が捧げ持たれた御眞影を全校生徒が、三河台から学校迄の沿道に整列してお迎えした。講堂の壇上に、白い奉安殿を置きその内に安置され、生徒はその前に2、3列に整列して拝礼をし順次壇を下りた。この様に間近で拝礼出来る事は二度と無かったとの事である。

キヤフテリアの昼食を食した方達に或る日、赤痢が発生し、学校全員に検査が行われ重症者数名が六本木の額田病院に入院され皆心配しました。

3年生になると日曜日は学校の礼拝が終ると隣の麻布教会へ小学科の渡り廊下づたいに行き濱崎次郎牧師の説教を伺った。

その頃土曜日がお休みでしたので午前中は級友と赤坂山王ホテルの地下にあるアイススケート場に行き土曜日の午前中ですから英和の生徒以外一般の方は殆んど居らず、鬼ごっこをしたり、眞鍮磨ぎと笑はれ乍ら同年9月から土曜日も授業があるようになった時までせせと通ったものです。

この年YWCAの会員になり宗教、奉仕、テニス、卓球、バスケット、レクリエーション、音楽の各部に夫々入部して今で云ふ部活が始まり、外部からコーチをお招きして放課後練習に励み日暮まで学校に残り本当に楽しい日々であった。

私はテニスと音楽部に入り、テニスは現在の井上早苗(旧姓岡田)コーチにラケットの素振りから試合が出来るまで基礎から教えて頂きました。

音楽部は津川みち先生で日曜礼拝の時オルガンの後に並んで聖歌を歌ったり「初夏の集い」の時に「流浪の民」「青きドナウ」等を一年上の岡さん?の指揮で合唱したり、先生に引込まれて日比谷公会堂で青少年の為の音楽会に数回出掛け、主催者の方がオーケストラの楽器の名称、各楽章の内

容を如何に表現しているか等々のお話を伺ってから演奏をきく事は大変有意義な勉強であった。

花小金井学校農園が出来、高田馬場で集合して行った。始めのうちは農家の庭で作業内容の説明を受ける間20分位立って居ただけで暑さ負けで気分が悪くなった方もあり先生方を心配させましたが、物珍らしさもあって種蒔き、大根のうろ抜き、麥踏み、脱穀等楽しんで働きましたが閉口したのは脱穀機の埃りでした。お三時に西瓜、秋にはふかし芋などを食した。後に林の中に小屋が出来上り、休憩時間に近くのダリア畑で好きなだけ切らせて頂いたこともありました。大根をトラック一杯収穫し学校に運び、雨天体操場で、生徒の家庭に分配したり、お料理の時間に千六本に切り屋上に干して切り干大根を作った。キヤフテリアの先隣りが西洋料理室、日本料理室向い側は職員食堂、職員会議室?食料倉庫(小さな室)と並んで居りました。

西洋料理はミス ストラザードの他に宣教師の先生が英語のプリントを授業の前にくださり、辞書を引いて目を通しておきます。覚えているのは焼リンゴで、お店で売っているのと異り家庭的な作り方、数種類のコーヒーの入れ方、クッキー、サンドキッチ等でした。日本料理は水木百代先生がご担当でデザートに作ったさつまいもの茶巾しぼり、バナナを入れたアイスクリーム等、シュークリームは後に卒業謝恩会にも作って出しました。料理の材料は水木先生が事務室のボーイさん連れて築地に買出しに行かれた由、まだ食料難にはなっていません。

昭和15年になると毎日礼拝の前に宮城遙拝を行い紀元二千六百年の祝賀行事(神宮外苑)に参加、宮城遙拝の旗行列、靖国神社参拝、明治神宮参拝の帰りに内苑の花菖蒲を見学、往復総て徒歩で

したので疲れた方だけ帰りは電車に乗れました。授業も午後は休みとなりました。勤労奉仕も始まり宮城前の整地か何か分かりませんが土をリヤカーに乗せて運んだり、モッコをかついだ方もあり、大体は芝生の雑草取りで神宮外苑絵画館向って右側の木々の間の事もあった。

この年英語科と家政科に分れて、家政科はお料理が加わり、お裁縫とは別に手芸（フランス刺繍、絹刺し、レース、毛糸編み等）を習いました。家政科の生徒は静岡県宇佐美の海岸に近く、山寄りに学校の寮が出来ていて、土曜日午後から一泊の合宿、お掃除、炊事、風呂炊きと分担して過した。

引卒は休養室の箱守はま、受持ちの水木百代、斉藤静子先生が行かれ、夕方外出される時に「鍵を掛け、決して開けないようにと云われた。私達は二階でゼスチュア遊びに夢中で騒いで居た為に帰られた時に叩けど呼べど聞えず、先生方をしめ出した形になりご迷惑をかけました。5月になった頃と思いますが土地の子供達はもう海で泳いでいました。翌年の合宿は次の駅の伊東に温泉に入りに行きました。半世紀前の伊東は特に夜、淋しい燈火管制下のような漁村の感じであった。うす暗い土産物屋で仲良し三人と5銭ずつ宛出し合って羊羹を1本求め大事に持ち帰りました。

学校の防火訓練には麻布中学の生徒さんが数名、放水を手伝って下さり私達は避難訓練を行った。

昭和16年には校名が東洋永和と英の字が変り、ミス・ハミルトンは宣教師館に居られ外出もまゝならぬ状態になりお目にかゝれなくなりました。修学旅行は一年上のクラスは北海道で徳川義親公？のお招きがあったようですが私達も楽しみに準備をして居りましたのに汽車が使用出来ぬ為（軍用優先）都内の女学校数校と合同の船で、竹芝棧

橋より鳥羽に上陸、船内二泊、京都一泊の関西でした。参加者は61名で10名毎に班を作り、各班に責任者を互選し、各班毎に役目を作り、ある班は全員の水筒を集めて旅行中お茶を休憩毎に補給するとか、私と日野原素子さんは進行係をしました。仕事は先生からの指示を（見学地でのスケジュール、到着毎に学校に電報を打ったり）班長に伝える、お食事の後はお薬を渡し水当りのないよう注意する事等であった。往きの船中一泊は多少の違いはあっても皆一様に船酔いを起し互いに助けあった。翌朝船中で夏服に着替え初夏の関西の暑さにそなえた。鳥羽港の五月の朝は清々しく青く澄んで居て私達のシルクの夏服がまぶしく美しく映えました。伊勢神宮、伏見桃山御陵参拜、清水寺、平安神宮、三十三間堂等を巡り京都は英和の定宿三条の吉岡旅館であった。当時お土産のハツ橋はすぐに売切れて次第に食料がきびしくなっていたのでしょうか。奈良は猿沢の池、若草山、法隆寺等であった。受持の他に東潤次先生が同行された。

夏休みの一週間を勤労奉仕で麻布有栖川公園で近所の子供達と一緒に砂場や広場で遊び遠藤綾子さんは紙芝居を見せた。これをNHKが取材し、8月のある朝番組に緑陰子供会としてラジオ放送があり、終りに私達の歌った校歌が流れた（参加者は先生と生徒20名位）

課外授業にピアノ科とバイオリン科がありリサイタルが講堂で時々行われた。井上綾子さんはピアノ科を卒業されて卒業式に卒業演奏をされました。課外趣味として、茶道（裏千家）華道（草月流）を習っていた方もありました。宗教部と奉仕部は礼拝の時司会を週一回行い又毎年夏はYWCAの修養会が御殿場で催され、同志社、女子学院等キリスト教の学校から生徒が参加し、英和から奉仕部と宗教部から4年生は、服部京子、倉数淑

子、高田容子、大矢知文子さん 5 年生から大橋久子、入江多喜子、公森華子、高橋千恵子さんが参加（昭和15年）して、宗教に関するディスカッション等を行った。

秋の感謝祭の礼拝後学校の近くで出生された家族のお宅に野菜をお届けしましたが大変感謝され気持ち良く受け取って頂き嬉しく思いました。

12月8日太平洋戦争が起りました。昭和17年日本史の授業で明治維新の所を神宮絵画館の中で小沢先生から絵画の説明を通して教えを受けた。本格的な勤労奉仕は一週間、大手町にあった内閣印刷局に行き、仕事は手紙（封筒）の宛名書き、地図にゴム印を押す等簡単な内容であった。

或る日職業安定所の方が数名来校し、数名ずつ斎藤先生立会の上面接が行われた、卒業後就職するようにと説得されたが夫々理由を述べ断った。恐らく軍需工場への勧誘であったと思われる。

裁縫の時間に防空頭巾の作り方を習い、下級生の級に数名ずつ行き指導したり、次第に戦争の実感が押しよせて来ました。

卒業見学は日比谷の裁判所で、当時物価統制令違反とか、物資の横流しのような事件ばかりでした。卒業生に4年生から餞別として贈られる記念品を

前年私達が贈った品と同じ（小指の先程の小さな水晶で出来ていて、名前が彫られ、五重塔が写る印鑑）を希望しました。

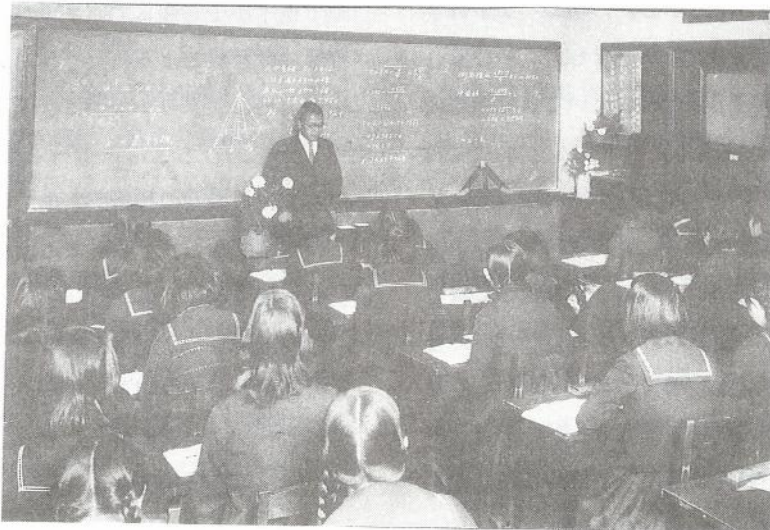
卒業に当り宣教師館にミス、ハミルトンにお別れのご挨拶に斎藤先生と有志10名位で伺い、小林ヘレンさんのピアノ伴奏で井上みどりさんがチェロを演奏しおなぐさめ致しました。庭一面の芝生に顔を出したラッパ水仙の黄色い花を折にふれ思い出されます。

卒業後直ちに芝公園にあった、日本建築の古いけれど広くて立派な東京府知事官舎に行き、同窓会に入会しました。会長は大江すみ様でした。

（松村知事夫人が同窓生であった由）この時はじめて村岡花子様にお目にかゝりました。

第一回のクラス会は芝山王、紅葉亭で行いました。入学3ヶ月後、卒業3ヶ月前に二つの戦争が始ってから、早半世紀が過ぎ思い出が多過ぎて取り留めない事を書きました。

ガス燈のやわらかい灯に舞う桜の花びらも美しく清らかな校舎も町と共に変わって行く事でしょう。当時日本一、いや東洋一と云われた校舎も今は無く、時はたゆみなく流れて行きます。



旧校舎思い出すままに……………

鳥居美子（社会科専任・講師 昭和27年卒）

◎ みんな仲よく一緒

私が中学部に入学した昭和二十年代は、まだ終戦後間もなく、世の中も、鳥居坂通りも、混乱していた時期でした。昔から近くに住んでいたので、^{わず}微かに英国風の鉄格子の塀が大谷石に変わり、軍隊に接収され荒れた校舎も長野先生はじめ先生方の御努力で修理されて居りました。家を焼かれた先生方は、校舎の空き部屋に住まわれ、放課後廊下を歩くと、ひょっと普段のお着物姿で現われたり、お鍋を持って通られたり、小学部は別館で御授業、部長の外崎先生には、職員室（保健室、英研究室と変わりましたが）にお使いにお伺い致しました。鳥居坂教会も、校庭の東北寄りにあった建物が焼け、小講堂で礼拝が守られ、英和の生徒はほんの数名、むずかしい浜崎牧師のお話しをお伺い致しました。昨年の不作から今年は輸入米が入り、外国米反対や米価高騰で大変問題となっていますが、この頃は、お米などなかなかお目にかかれない食糧不足の時代で、お弁当はもって来れない人もあり、「とうもろこし」の粉のパンやお芋のお弁当を分けあっていただきました。……そうそうお芋の配給券を学校でいただいて皆で鳥居坂下左手の焼き芋屋で長い間待っていたいた焼き芋のおいしかった事……強烈な印象が残っています。！アメリカ救援物資（ララ物資）の洋服を教室でジャンケンで次々と分けあって修正して着たこと！……制服も先輩の方々のをいただいて着られれば良い方でした。物資がない……なにもない……今では考えられない状態でした。テスト用紙もない……家から何でもよいので持って行きま

した。黒板いっぱい先生方は苦勞して問題を書かれます。よい事には一問目は先生がお書きになっている間に皆で相談し合えることでした。全員で「教えっこ」のカンニング……が認められました。用務員（小使いさん）の御家族も学校に住まわれ、夜遅くまで私達のことを細まごまと雑用をして下さいました。修学旅行等にも付いて来て、校長先生と間違われるほど偉そうな姿で蝶ネクタイがよく似合うおじさんでした。

運動会もみんな一緒にほんとうに楽しかったです。今の新館や体育館あたりはグラウンドで、楕円形になって居り真中でダンスなどをしました。北側は階段式の見学場になって居り毎年の学年記念撮影はここで写しました。幼稚園のかわいらしいお遊技から女らしい専攻科（現短大）のお姉様達の優雅なダンスまで、その中で特に中高部の高三の方々の「線の造形」と「行進」は、あこがれのお姉様達が拝見できる待望のプログラムでした。当日は「お山」（現在の通用門から体育館までの道で樹木が少し残っていますが、昔は椎や榎など校歌に歌われるようにたくさんありました。小学生のために、ブランコやロクボクなど遊ぶものも、ベンチもありちょっと遊べる楽しいところでした。）に母の会の模擬店も出て中村時蔵御夫妻など皆様素敵なお召しものでお出かけ下さいました。

◎ 何もなくても幸せ

昔の大講堂や教室は大変暗かったです。豊さを求めて昼のような明るさを求めて、明治の頃の人達はランプに大変感激したそうですが、それが電燈に変わり今は蛍光灯になりました。それでいて

今の人は目が悪くなりましたね。ワープロやテレビゲームで目を悪くしたのでしょうか。アフリカの人には大自然の中で遠目が効き、視力が七・〇とも言われますね。昔の電気は今よりずっと暗かったです。大講堂中央遠く素敵なシャンデリヤが三つ付いて居りました。字は読みにくいですが、荘厳な雰囲気がありました。蛍光灯に変わった頃楽しかったのは、「東芝」は「マツダ・ランプ」と書いてありました。これがゾロアスター教の光の神アフラ・マツダからとったものとの話で、上を観てこれを読むのが楽しみの一つでした。

英和はキリスト教教育のため先生も生徒も神の前の平等との姿勢があり、先生方の言葉使い、態度は、公立の学校と全く違っていました。教壇がないのはその一つともおきき致しました。これは今でも守られていると思います。黒板の横には棚があり、聖書讃美歌が置かれ……途中から辞書等も置かれるようになりましたが………当番表の書かれた小黒板がさがり、そして花瓶には毎週週番がお花を用意するように指示されていました。枯れた花は早く捨てるように御注意もよく先生方から受けました。或る時、暗いとか黒板が見にくいとかの問題が出ました。特に左右の一番前の人達が見にくいとの事で、学校も考えられ、業者によって左右が湾曲^{わん}になった新しいものに変えられました。しかし左右の小黒板や棚は使えなくなり、そして左右の前の人達は、あまり見良くなりませんでした。「新しくなればよいもの」………とは言えないと言うことは現在でもありますね。

◎ パン屋さんは四代目。

戦後のパンの普及により給食パンがはじまりました。英和も戦前は食事があり………その為地下にはキャフテリアがありました………戦後はぜひパンの販売をとの声が上がりに、この頃銀座一丁目

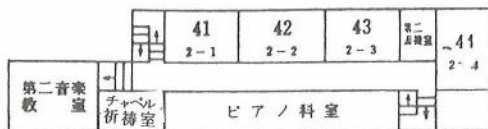
にあった「オリンピック」のパン屋さんが昭和二十年代に販売されました。今のホットドックのような形のパンにキャベツ・ハムの細切れを特製のマヨネーズで合えたパンが大変人気があり今でもその味の良さは覚えています。生クリームが入っていたのでしょうか？学校に来る途中三河台の角（現六本木五丁目パンツジョップ）には木村屋パン店があり、毎朝おいしそうなパンを焼く香りで登校したものです。二台目は「第一パン」屋さんでした。旧桜田通り桜田神社があるので（現テレビ朝日通り）そこに大きな工場があり、毎日焼きたてが届けられました。パンの種類も多くなりキャフテリアの横にカラフルな学年別申込みボックスも出来ました。この頃はパン屋さん以外に多くの同窓会の先輩の方々がお手伝い下さいました。短大図書館の芝原先生や背のお高い着物姿の阿部さん、元気よい日塔さん、体格のよい川崎さんなど販売方法もきびしく、生活指導もしていただきました。「第一パン」工場が移転することとなり、社長様が御父兄であったことからその御紹介で「相模屋」さんが販売することとなりました。有名な「おじぱん」です。相模屋のおじさんはみなさんにおいしいパンをと、市販以外にも色々工夫して新製品を手造りして下さいました。朝三時から起き、タマゴを湯でてサンドウィッチを造り、そして自転車で作来たのから何回も届けて下さいました。H・Rにある銅の花瓶は裏に「オジパン」と書いてあります。おじさんが召天されてから記念にいただいたものです。この頃の申込みは職員室前のポストになり、赤い袋がかわいかったのを思い出します。現在は四代目で、牛乳を入れて下さった渡辺さんが「伊藤パン」と「明治パン」を販売しています。やはり色々工夫して新製品を入れて下さり、小工場も東側にでき、おいしいサ

ンドも造られ、サラダや焼きそば、おにぎりまで登場しています。遠距離通学者のための「お十時」もでき、感謝していただかねば……………

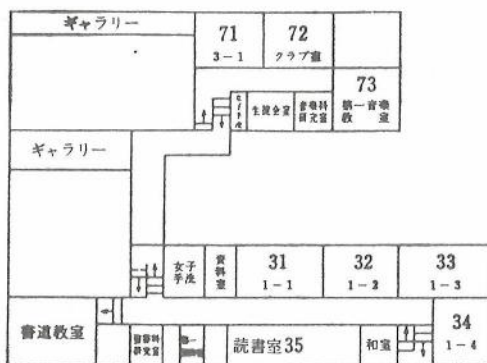
◎ みんなで大切に！

60年近くまでみんなの為に建っていた校舎。建物ばかりでなく机や椅子等家具や調度品なども。何回も先生方や小遣いさん達が修理され、そして先輩卒業生達の心細かな丁寧な使い方です。私達は使える事が出来たのだと思います。

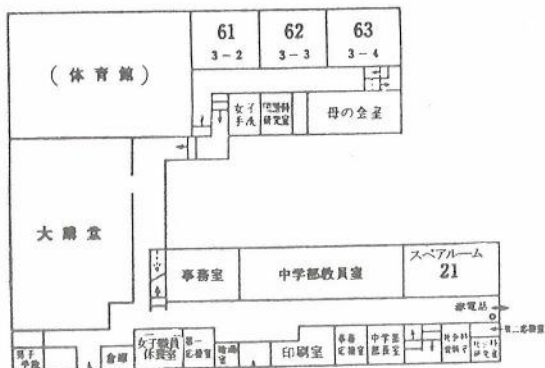
机と椅子は一緒になったもので40年近くまで使われていたのではないのでしょうか。一番端のみ反対側となってましたが、だんだんと数が少なくなり修理に修理を加え使ったようです。机は薄く教科書は、ほんの次の授業で使うもののみ入り、ほとんど椅子の下に入れました。大変なのはお掃除の時の移動です。うっかりすると重くて前の方に倒れてしまうのです。戦前は成績順の着席とお聞き致します。ですから礼拝もそのまま、講堂では成績順となり上下の生徒達にもその成績がわかったそうです。戦後はずっと背の順で小さな人が前、テストの時だけ名簿順で、健康診断での基準を中学生の頃は丁寧に並んでいました。私など小さかったのでもいつも前の方、お友達も背の大きさでお仲間が多かったです。今は色々くじ籤などで決めているようですが名簿順が多いですね。それから、廊下のタイルも一枚一枚大掃除で拭き掃除され、その後を事務員さん達が再度拭いて下さいました。誰かが掃除しているからいいんだ！と言うことできれいに使わないことはよくありません。「ごみ」はやたらと捨てない心がけ……そしてあったら拾ってゴミ箱に入れる行為、実行する人間になりたいものです。新校舎は、これからの人達がどのように使い後輩に残すかが大きな問題ですね。



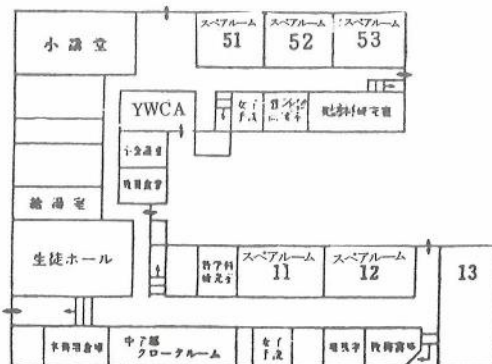
4F



3F



2F



1F

昭和20年～30年代

高橋温子（英語科講師・昭和35年卒）

娘をミッションスクールに入れる為に、疎開先の津田沼から東京に戻ったのは、昭和22年の秋でした。戦後まもない焼け野原のように人の心も荒れ果てた今こそキリスト教教育を、という母の選択は正しかったと、今も感謝しています。青山学院を受験するはずでしたのに、東洋英和の方が試験が先だったこと、家から歩いて通える距離にあったことから、私の英和との長いおつき合いが始まったのでした。

当時の小学部は、別館の1階から2階を使っていました。一学年一クラスでしたから、全校でも三百人ほどです。毎朝、小講堂前のホールに整列して礼拝に臨みました。YWCAの部屋は事務室で、一年生が1番教室、二年三年と続き、四年生から二階の教室になりました。英研室の奥の部屋が職員室、手前の部屋が保健室、中のタイプ室は、校長先生のお部屋でした。二階の書道室は家庭科室、国語研究室は図書室として使い、雨天体操場を小学生が使うことは殆どありませんでした。その代り広い運動場は私たちの世界でした。またそれは年二回、幼稚園から短大までの全校が集まる場所でもありました。創立記念日の式典と、運動会です。小学生にとっては広い広いグラウンドでしたが、全校生が共に一日を過ごすためには、プログラムなど、当時の先生方は色々御苦労があったことと推察されます。或る年、女学校のお姉様方が、反乱を起こしたのでしょうか、この運動会に参加なさらず、私たち小学生だけで過したことがありました。（その頃、清野先生や朽木先生は高校生でいらしたはずです。）あたたかい陽を浴び

て元気に走ったり楽しそうに競技をしている私たちを、三階の教室や別館の屋上からうらやましそうに眺めていらしたお姉さま方の様子は、今でも憶えています。次の年は又一緒に運動会をしましたが、この大所帯の行事も、小学部の移転と同時に消滅してしまいました。

椎や檜の茂るお山も、思い出深い場所でした。講堂の横の通学路になっている部分ですが、入り口の高さがそのまま今の階段のあるところまで続き、石垣で回りを築いたお山で、小講堂の側に石の階段がありました。五年生位になると、その石垣の上から飛び降りては英雄的気分にひたったものでした。

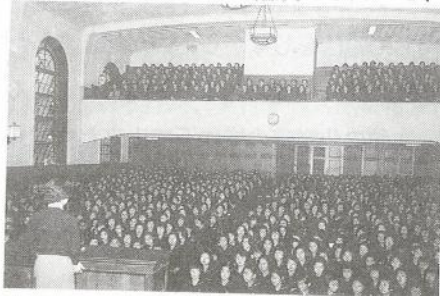
唯一、本館で小学生が使っていたのがキャフェテリアでした。四時間目が終るとお弁当をもって（途中から給食になりました）小講堂前のホールに整列し、うす暗い長い廊下をおずおずと行進します。中世風の趣きを持つキャフェで、丸テーブル或いは壁に沿った細長いテーブルを囲み、一年生から四年生までのテーブルには六年生のホステスがついて、食事の世話をしてくれます。これは上級生とお話のできるとても良い機会で、一人っ子の私は色々な刺激を受けました。五年生だけではキャフェの奥（窓側）の数段高くなっていたところ（いつからか低くなっていましたが）で、自分たちで給仕をしながら、いただきました。本館と別館の間の中庭に入ることはありませんでしたが、本館の化学室の横に石で出来たすべり台があって砂をまいてすべりやすくして遊んでいました。

小学部最後の年に、新しい小学部校舎の建築が

始まり、その年の一年生は二クラスにふえました。私たち六年生の教室が足りなくなっていました。それで何と短大のバラックのような校舎の一部屋を借りて、短大生が勉強している教室の横の廊下を足音をしのばせて歩き、肩身の狭い一年間を過しました。そして卒業式。小学部・高等部・短大と一緒にマーガレット・クレイグ講堂で行う最後の卒業式になりました。式で歌う讃美歌は小学生にはむずかしく、何度も練習しました。私達は赤いカーネーションをそれぞれ胸に、いつもの音楽に合わせて入場。最前列の私達たちは、うしろのお姉さま達の一挙手一投足を感じとって一条乱れぬ行動をとるのに一生けん命で、院長先生のお話など全く記憶にはありませんが、記念すべき卒業式でした。

私たちが小学部を卒業するのと同時に、小学部は現在の校舎に移りました。あの英和の校舎のすべてが私たちの中・高生のものになった年が、創立七十周年で中一の春でした。古い制服から二本線の新しい制服に身をつつみ、同じ学校でありながら私にとってはすべて初めての先生方に迎えられ、輝くばかりの中生活が始まりました。先生に憧れ上級生に憧れ、新しい友達がたくさん出来て、勉強は楽しかったし宗教部（現YWCA）の活動に没頭し、とても幸せな少女時代でした。

当時はまだ短大講堂はありませんでしたから、本館二階の突当りのドアはなく、職員室をはさんで中一の教室が並んでいました。高三だけ二クラスで他は総て一学年三クラス編成でしたので、中



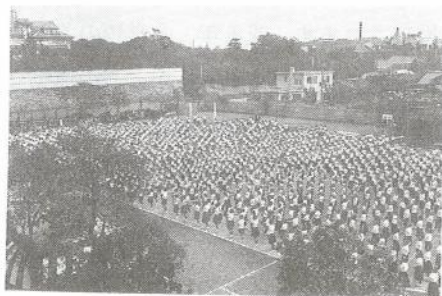
高と一緒に大講堂で礼拝をまもらしました。

当時は屋上にも自由に出ることができて、お弁当を広げたり、鬼ごっこをしたり、恰好の遊び場でしたが、スカートを風になびかせて屋上のさくの上を金網づたいに歩いたのが先生方の心配を誘発したのでしょうか、屋上は出入り禁止になってしまいました。又、雨天体操場の天井から吊るされた太いロープに二階のギャラリーから乗り降りしばらくブランコを楽しんで床に飛び降りたり、壁面に取り付けられた木のろくぼくに登るのも、いつしか許されなくなりました。

小学生の頑張りをまわっていたお山は、中高生にとっては友情をあたためる場でもあり、しばし瞑想に耽ける場でもありました。うっそうと茂った大きな木の下はいつもしっとりとしていて、ベンチがあって、静かで、いつ行っても心の休まる、母のふところのような場所でした。

東京女子大学に進み四年後、創立八十周年の年に再び母校に帰ってみると、運動場の横に中学部の校舎が建っていました。その後、その建物は早々と取り壊されて、今の立派な校舎と体育館になりました。

六本木の街並みがどんどん移り変っていったのと対照的に、いつも変わらずそびえ立っていた学舎が、今新しく生まれかわる時が来たのです。みんなの熱い想いと祈りによって与えられるこの新しい校舎で、これからも新しい生命が限りなく、はぐくまれていくことでしょう。



失われた校舎の礎石の中から

中学部校舎 定礎収蔵品目
(1982. 開函)

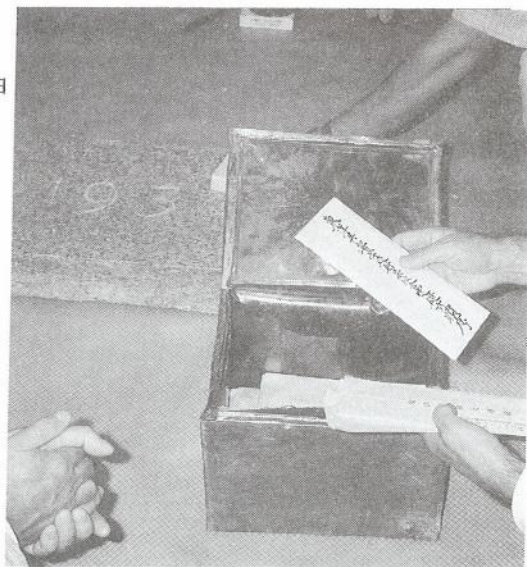
- 東洋英和女学院中学部校舎献堂式次第
- 学校法人東洋英和女学院中学部校舎献堂銘版
- 昭和37年度教職員名簿
- 中学部高等部 生徒・保護者名簿
- 中学部新校舎建設資金募集趣意書
- 中学部新校舎建設資金寄付者名簿
- 東洋英和女学院七十年誌
- 聖書 (口語訳 1962年刊)
- 東洋英和幼稚園 新園舎パンフレット
短期大学新校舎パンフレット 要覧 (1962年度)
- 中学部高等部「概」 (1962年度)
- 幼稚園 入園案内
小学部 入学案内
中学部 “
短期大学 “
- 東洋英和新聞 [中学部高等部] (昭和37年7月17日付、11月5日付)
東洋英和短大新聞 (昭和37年11月2日付)
- 朝日新聞 (昭和37年11月5日付)

短期大学校舎 定礎収蔵品目
(1992. 7. 10 開函)
(平成4年)

- 学校法人 東洋英和女学院短期大学校舎献堂銘版
建築主 設計者 施工者 定礎年月日 昭和三十四年七月三日
- 学校法人 東洋英和女学院寄附行為
- 東洋英和女学院短期大学 学則
- 東洋英和女学院短期大学 要覧 (1959年度)
- 東洋英和女学院短期大学 名簿 (昭和三十四年度)
- 東洋英和女学院短期大学 昭和三十五年入学試験要項
- 聖書 宣教百年記念 日本聖書協会 1959
- 写真
東洋英和女学院短期大学建設中 5枚
全学修養会 (1959. 6. 15) 1枚
- 新聞
朝日新聞 (昭和34年(1959年)7月3日付)
The Japan Times (FRIDAY, JULY 3, 1959)

中高部本館・別館 定礎収蔵品目
(1994. 9. 14 開函)

- 東洋英和女学校新築校舎定礎式順序
- 東洋英和女学校沿革
- 理事及教職員名簿
- 同窓会建築資金募集趣意書
- 建築委員及設計監督者請負人氏名
- 東洋英和女学校 高等女学科半則
- 幼稚園園簿半則
- 東洋英和女学校 高等女学科成績簿
- “ “ 通知簿
- 東洋英和女学校同窓会会員名簿 (昭和7年6月25日現在)
東洋英和女学校同窓会会報 (昭和6年度)
沈丁花 Graduates 1932
- 校舎設計図 4枚
- コイン 日本 1銭、10銭
カナダ 1cents、5 cents
- 聖書 (文語訳 昭和2年刊)
- 日本メソヂスト新聞 (昭和7年9月16付)
ワレラのグラフ (1932年9月号)
- THE JAPAN ADVERTISER (September 21, 1932)
読売新聞 (昭和9年9月21日付)
報知新聞 (昭和9年9月21日付)



目 次

No.31～No.40

No. 31 発行 1988. 11. 6

ピアノ科の歴史Ⅱピアノ科百周年を迎えて

第二次大戦後のピアノ科 加藤 信子
1981年～1987年のピアノ科 丸山もと子

No. 32 発行 1989. 3. 31

幼稚園とともに

母校幼稚園に勤続12年間の回想 宮崎千恵子
子どもに焦点を合わせて 黒田 成子
史料室日誌から 芝原 翠

No. 33 発行 1989. 11. 6

短大「木造校舎時代」について

インタビュー S. M. Juten
思い出 市原多喜子

駒来 裕子

前田美南子

大江 祐子

No. 34 発行 1990. 4 . 12

幼稚園とともに

母校幼稚園に勤続12年間の回想（続）

宮崎千恵子

私にとっての英和幼稚園

藤田 均

寄贈資料一覧 1983～1986 (No. 1)

No. 35 発行 1991. 3. 29

小学部の史料を整理して

倉本 和

小学部史料を整理会（仮）

寄贈資料一覧 1986～1987 (No. 2)

No. 36 発行 1991. 9. 24

かえで幼稚園

かえで幼稚園創設まで

黒田 成子

かえで幼稚園のこと（その一）

土橋 克子

（その二）

森高ホサナ

キャンプの手伝いをして

茂木 俊明

保育を志して

浦上真理子

「かえで」の子がいるから

篠山 淳子

大丈夫

かえで幼稚園の思い出

中川 和子

No. 37

発行 1991. 11. 6

大学の設置

四大の誕生－英和の新たな軌跡 土持 法一
「東洋英和女学院大学」設置にあたって

朝倉 孝吉

新しい飛躍

小林 政吉

「大学設置準備室」

No. 38

発行 1992. 4. 8

昭和20年代の中・高部

昭和19年の終りから終戦まで 清水 千代

主の手に導かれて 中野登美子

勤めはじめた頃のこと 八十島 栄

戦後復興期に学ぶ 景山 暁美

史料室日誌抄 1991年度 芝原 翠

No. 39

発行 1992. 11. 6

名誉院長 長野彌先生

長ぼんと黄色いおべんとう 二橋美都子

戦争中のこと 田之上浜子

長野先生 杏澤謙一郎

長野先生の思い出

－お手紙から－ 富岡 正男

100年史のための長野先生のお話

No. 40

発行 1993. 9. 29

外崎長三郎先生

小学部の絆 阿部 光子

外崎先生 堤 治子

外崎先生へ感謝 澤 暢子

出会い－外崎先生を偲んで－ 中里 昭子

歌声 照屋美和子

あとがき 旧校舎の頃の学校生活について特集しました。最初の平面図等は「日かげ織るこの窓」や、「鳥居坂わが学び舎」に収録されましたので、最後に使われていた平面図のみにしました。旧校舎で学んだ卒業生全員の思い出を集めて残すことが出来ないのが残念です。

（中・高部 古澤育恵 斎藤郁子 朽木久子）